

Society 5.0による サステイナブルな 資本主義の実現で未来を拓く



日立製作所会長
東原敏昭
ひがしはら としあき

この1年、新型コロナウイルス感染の拡大は、私達の生活やビジネスに大きな影響を与え、デジタルトランスフォーメーション(DX)を通じた新たな成長、働き方の改革、地方経済の活性化、国際経済秩序の再構築、グリーン社会の実現など取り組むべき社会課題が改めて浮き彫りとなった。これらの課題を成長の機会とすべく、経団連はサステイナブルな資本主義の確立を目指す「。新成長戦略」を取りまとめ、具体的な取り組みを開始した。このような大きな変革の時に副会長を拝命し、責任の重さに身が引き締まる思いである。

私達が直面している社会課題は年々深刻さを増し、これまでの延長線上の改革だけで解決していくことがますます困難になってきた。自らが未来のあるべき姿を描き、具体的な解決策を考えていくことが求められていく。そのためには、これまでの経験のみに頼るのではなく、DXの推進から得られるデータを用いて、課題の可視化と解決策を導き出し、社会実装に向けた社会のコンセンサスの醸成に繋げる必要がある。また、データの安全な共有は、社会に透明性と信頼をもたらし、人々が安心して暮らせるフラットな社会づくりにも役立つと考えている。

さらに、世界を見渡すと新型コロナウイルス感染症やカーボンニュートラルに代表される気候変動問題など、地球規模の課題に直面している。経済界においても個別の経済価値のみを追求しては国際社会の期待に応えられない。社会にどのような価値を提供できるか真摯に考える必要がある。その中で、多様なステークホルダーとの協創は、グリーン社会の実現などの新たな価値の創出の大きな原動力となり、国を超えて課題に向き合うことは国際間の協調にも繋がる。このように、DXの推進と協創の加速は、社会の課題を解決するとともに、新たな成長を実現し、循環型経済の形成や、多様性を活かした新たな働き方の実現にも貢献する。そのためにもSociety 5.0の推進が大切であり、しっかりと取り組んでいきたい。